



JICA 研修報告

2025 年度 JICA 課題別研修「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」実施報告

仲田麻奈¹⁾・江原 宏^{1,2)}・伊藤香純¹⁾

1) 名古屋大学農学国際教育研究センター

2) 名古屋大学大学院生命農学研究科

受付 2026 年 1 月 14 日

本研修は、名古屋大学農学国際教育研究センターが受託し、農学知的支援ネットワーク（JISNAS）および関連連携機関と協力して実施するものであり、2012 年度の開始以来、第 5 フェーズの 2 年目に当たる。本年度は、CARD¹⁾ イニシアティブ対象国であるサブサハラ・アフリカ諸国のうち、ウガンダ、ジンバブエ、スーダン、南スーダン、エチオピア、ザンビアの 6 か国から、計 7 名の研修員が参加した。

本研修は、JICA 中部において実施する約 2 週間の「コア研修」（講義、演習、見学）と、各研修員が自身の専門分野における知識および研究手法をさらに深化させることを目的とした約 3 週間の「個別研修」から構成されている。表 1 には、2025 年度に実施したコア研修の日程およびプログラム内容を示した。

コア研修では、研修員が各自の国における農業の概要および稲作に関する課題について発表し、参加者間で情報共有を行った後、稲作学の基礎となる知識を、幅広い専門分野を対象に学習した。また、「Rice Seminar」と題し、名古屋大学低温プラズマ科学研究センターの教員および名古屋大学大学院生命農学研究科に在籍する博士後期課程の留学生が研究紹介を行った。セミナーでは、研修員が積極的に質問を投げかけ、活発な議論が交わされるなど、高い探究心がうかがえた。さらに、現地研修の一環として、愛知県農業総合試験場、四谷千枚田（愛知県新城市）、ならびに JICA 筑波センター（茨城県つくば市）周辺施設を訪問し、日本における稲作技術や農業の現場を実地で学ぶ機会を設け

た。これにより、研修員は日本の稲作に関する知識を理解するだけでなく、実際の技術や取り組みを体験的に学習することができた。

個別研修では、研修員の専門分野および研究関心に基づいてマッチングを行い、JISNAS 会員大学または名古屋大学農学国際教育研究センターの連携機関へ研修員を派遣した。研修員は、それぞれの専門性に応じて構成されたオリジナルの研修プログラムを通じて専門知識および研究技術を深化させた。あわせて、受入教員の指導および助言のもと、研修期間中に得られた知見を踏まえ、帰国後の実施を想定した研究プロジェクトのリサーチプランを作成した。さらに、将来的に学位取得を希望する研修員に対しては、博士後期課程への進学に向けた具体的な助言を受ける機会も提供された。実際に、本研修を契機として博士後期課程への入学を果たした研修員もおり、本研修は日本人研究者との連携強化の機会を提供するとともに、研修員の研究力向上およびキャリア形成の支援に大きく寄与している。

本年度は、第 9 回アフリカ開発会議（TICAD²⁾）が横浜で開催された。そのプレイベントとして「Japan-Africa Youth Camp」が 2025 年 8 月 5 日から 6 日にかけて JICA 中部センターにて開催された。本研修の研修員および個別研修受入機関に加え、過去に本研修に関わった機関に所属するアフリカ出身留学生や日本人学生も参加し、多様な立場からの交流が実現した。これらの交流を通じて、アフリカ地域における研究ネット

表1 アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成コア研修プログラム（2025年度）

日付	活動内容	講師・担当	場所
6月25日	開講式、コース概要説明 インセプションレポート発表会、総合討論	名古屋大学、JICA	JICA 中部 他
6月26日	< 講義 > CARD 事業、人材育成プログラム（Agri-Net 等）、 日本の国際農林水産研究行政 日本の稲作の発展と稲作技術および政策 農学国際教育協力のネットワーキング	浅沼修一（名古屋大名誉教授）	JICA 中部
		浅沼修一（名古屋大名誉教授） 江原宏（名古屋大）	JICA 中部
6月27日	< 講義 > アジアの稲作とアフリカの稲作 1 アジアの稲作とアフリカの稲作 2 イネの形態と生理 1	坂上潤一（鹿児島大学）	JICA 中部
		坂上潤一（鹿児島大学） 仲田麻奈（名古屋大）	JICA 中部
6月30日	< 現地研修 1 > PLASMA Farming NU-FMV Lab（東郷町）見学 愛知県農業総合試験場 作物研究部水田利用研究室訪問	江原宏（名古屋大学）	東郷町 安城市
7月1日	< 講義 > イネの病害 1 イネの病害 2 品種育成 1 品種育成 2	荒川征夫（名城大学）	JICA 中部
		荒川征夫（名城大学） 土井一行（名古屋大学） 土井一行（名古屋大学）	JICA 中部
7月2日	< 講義 > イネの形態と生理 2 土壌肥料 イネの栄養	江原宏（名古屋大学）	JICA 中部
		近藤始彦（名古屋大学） 近藤始彦（名古屋大学）	JICA 中部
7月3日	< 講義 > イネの形態と生理 3 水田の雑草 1 水田の雑草 2	仲田麻奈（名古屋大学）	JICA 中部
		内野彰（農研機構） 内野彰（農研機構）	JICA 中部
7月4日	< 講義 > イネの害虫 1 1 イネの害虫 2 農業普及	松村正哉（農研機構）	JICA 中部
		松村正哉（農研機構） 伊藤香純（名古屋大学）	JICA 中部
7月7日	< 講義 > Sawah Technology1 Sawah Technology2 < 討議 > Rice Seminar	若月利之（島根大学名誉教授）	JICA 中部
		若月利之（島根大学名誉教授） 江原宏（名古屋大学）	JICA 中部
7月8日	< 講義 > 統計解析 1 統計解析 2 統計解析 3	桂圭佑（京都大学）	JICA 中部
		桂圭佑（京都大学） 桂圭佑（京都大学）	
7月9日	< 現地研修 2 > 四谷千枚田（愛知県新城市）訪問	江原宏（名古屋大学）	新城市
7月10日	< 現地研修 3 > 食と農の科学館 見学 国際農林水産業研究センター（JIRCAS）訪問	江原宏（名古屋大学）	つくば市
7月11日	< 現地研修 4 > JICA 筑波センターにて ・ 共創ハブの展示見学 ・ FieldDay のオブザーバー参加 ・ 他稲作コース研修員との交流	江原宏（名古屋大）	JICA 筑波
7月15日～ 8月4日	< 個別研修：受入大学 > ・ 講義、実習、視察 ・ リサーチプラン作成	参加大学	参加大学
8月6日	< 討義 > TICAD プレイメント参加		JICA 中部 他
8月7日	< 討義 > 研修計画発表会 研究計画発表会	名古屋大学、JICA	JICA 中部 他
8月8日	評価会、閉講式	名古屋大学、JICA	JICA 中部 他

ワークのさらなる強化、アフリカ諸国間の研究交流の促進、日・アフリカ諸国による共同研究の発展、ならびに SDGs 達成への貢献につながる事が期待される。

本年度の研修実施にあたり、コア研修の講義をご担当いただいた講師の皆様、愛知県農業総合試験場長久手本場および安城農業技術センターの関係者の皆様、鞍掛山麓千枚田保存会の皆様、ならびに研修運営に多大なるご支援を賜りました JICA 中部センターの関係者の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

1) CARD : Coalition for African Rice Development (アフリカ稲作振興のための共同体)。サブサハラ・アフリカのコメの生産量を 10 年間で倍増 (1,400 万トンから 2,800 万トン) することを目標に、2008 年の TICAD²⁾ IV で JICA が国際 NGO の AGRA³⁾ と共同で立ち上げた国際イニシアティブ。フェーズ 1 (2008 年～2018 年) では 2018 年に倍増目標が達成された。フェーズ 1 参加国: ベナン, ブルキナファソ, カメルーン, 中央アフリカ共和国, コンゴ民主共和国, コートジボワール, エチオピア, ガンビア, ガーナ, ギニア, ケニア, リベリア, マダガスカル, マリ, モザンビーク, ナイジェリア, ルワンダ, セネガル, シエラレオネ, タンザニア,

トーゴ, ウガンダ, ザンビア。さらに、人口増加やコメ食の広がりを受けてコメ需要が増え続けている状況を踏まえ、2019 年に横浜で開催された TICAD7 で、「2030 年までにさらなるコメ生産量の倍増 (2800 万トンから 5600 万トン)」を目標としたフェーズ 2 (2019 年～2030 年) が発足。CARD フェーズ 2 では対象国を拡大し、各国の国産米の競争力強化や民間セクターとの更なる連携を進めるべく、RICE⁴⁾ アプローチを通して倍増に至る道筋を重視している (<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html>)。フェーズ 2 から加わった国: アンゴラ, マラウイ, スーダン, ブルンジ, チャド, ガボン, ギニアビサウ, ニジェール, コンゴ共和国。

2) TICAD : Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議)。1993 年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催している。

3) AGRA : Alliance for a Green Revolution in Africa (アフリカ緑の革命のための同盟)。

4) RICE : Resilience, Industrialization, Competitiveness, Empowerment。CARD フェーズ 2 で採用された取



図 1 JICA 筑波センター見学

り組み、気候変動・人口増に対応した生産安定化
や、民間セクターと協調した現地における産業形
成、輸入米に対抗できる自国産米の品質向上、農

家の生計・生活向上のための農業経営体系の構築
に取り組む。)



図2 閉講式